

会報

No. 79

平成21(2009)年8月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075) 762-4655

岡崎の地で開設百周年の節目に

京都府立図書館 館長 勝間喜一郎

明治六年（一八七三年）に開設された「集書院」を前身とする「京都府立図書館」は、明治三十一年（一八九八年）に京都御苑内博覧会協会東館を借受けて開設され、現在の岡崎の地で「京都府立京都図書館」として開設されたのが明治四十二年（一九〇九年）。それから数えて今年が百周年という記念すべき年に当たっております。

古い資料を調べたところ、明治四十二年の學務課資料に、当時の京都府知事（第十代知事大森鍾一氏）の決裁印がつかれた「京都府立圖書館規則改正案」が綴じられておりました。当時の図書館運営の姿が分かりますので、百年目のこの機会に少し御紹介したいと思います。

「第一条 本館ハ内外古今ノ書ヲ蒐集保存シテ公衆ノ閲覧ニ供ス」
図書館の使命の規定です。

「第二条 本館ノ開館時間ハ左ノ



如シ但シ本館ノ都合……（略）十一月一日ヨリ二月末マデ午前九時開館、午後九時閉館。三月一日ヨリ十月末マデ午前八時開館、午後十時閉館」

一日の開館時間はかなり長かったことが分かります。

「第三条 本館定期休館日ハ左ノ如シ但シ臨時ノ休館ハ其都度之ヲ揭示ス

歳首 一月一日ヨリ四日迄

紀元節 二月十一日

曝書 十月十一月ノ内凡十日間

天長節 十一月三日

歳末 十二月廿八日ヨリ三十一日迄

館内掃除日 毎月末日」

臨時の休館日がどれほどあったかは分かりませんが、仮に月二〜三回としても、開館日数は三百日以上になります。

現在、公立図書館は入場料等を徴収してはならないこととされておりますが、当時は徴収していたようです。

「第四条 閲覧券ノ種類及其價格左ノ如シ……（略）」

普通閲覧券

一回券

十回券 有効期限六十日間金拾六銭

金貳銭

世回券 有効期限百二十日間金四拾銭……（略）」

普通閲覧券より多くの図書が閲覧できる特別閲覧券（値段は二倍）もあり、これら閲覧券の購入が求められました。

第五条以下（第二十五条まで）には、閲覧の方法や図書館でのマナー、寄贈・委託等についての規定があり、昔も今も変わらない図書館の姿が想像されます。

同資料には「京都府立図書館々外貸與規則改正案」もあり「第一条 本府管内ニ於ケル公私立図書館又ハ教育會等ニシテ公衆ニ対シ圖書ヲ閲覧セシムルモノニハ其出願ニ依リ館長ニ於テ本館蔵書ノ館外貸與ヲ許ス右ノ内公私立図書館ノ下へ學校ノ二字ニ入ル」となっており、学校への貸出が明治四十二年から開始されたことが分かります。

現在の京都府立図書館のコンセプトの一つである「市町村支援・学校支援」が、当時と現在では社会情勢等大きく異なるとはいえ、当図書館の黎明期からのものであることを確認し、感動するとともに、百年という節目の今、支援事業等のより一層の推進に全力を尽くしたいと決意を新たにしております。皆様方の格別の御支援・御協力をどうかよろしく願います。

平成二十一年度 京都府図書館等連絡協議会定期総会開催

平成二十一年度京図連協定期総会が、平成二十一年四月二十三日(木)午後一時三〇分から、京都府立図書館において開催されました。

開会行事として、仁科会長のあいさつ、金箱国立国会図書館関西館次長、安久井京都府教育庁指導部社会教育課長の来賓あいさつ、勝間京都府立図書館長の歓迎あいさつがありました。

その後、平成二十一年度の理事紹介及び事務局紹介があり、議事に入りました。

総会の後には、図書館業務に永年勤続し、その功績を認められた十一名の方の表彰、並びに、「選書から考えるこれからの図書館経営」をテーマに、静岡市立御幸町図書館長豊田高広氏から御講演をいただきました。(詳細は、次ページ)

◇総会議事

総会は、刈滝精華町立図書館長を議長に選出し、加盟館四十九館中、出席二十四館・委任状二十四館により、総会が成立していることを確認

した後、議事が開始されました。

事務局から平成二十年度会務及び決算報告、監事の梅原京都市北図書館長から監査報告がなされ、会務報告・決算報告ともに承認されました。

その後、表彰規程の一部改正(案)、平成二十一年度事業計画(案)及び予算(案)が提案され、それぞれ承認された後、協議と採決が行われ、全議案の承認が確認されました。

また、梅原京都市北図書館長、村田久御山町立図書館長を監事とし、中西京都市中央図書館長、井口京都府立総合資料館長、勝間京都府立図書館長を顧問とすることが、それぞれ承認され、総会は閉会しました。

◇会務報告・決算報告

会務報告では、京都市右京中央図書館オープン、K-Libnetの横断検索館の増加など図書館の動向や相互協力の増加が報告されました。

次に、定期総会、理事会、各専門委員会、子ども読書絵てがみコンテス

ト、読書ボランティア養成支援事業などについて報告されました。決算報告では、各専門委員会委員への旅費の支出等が報告されました。

◇表彰規程の一部改正(案)

表彰規程の一部改正(案)では、表彰対象を主に図書館におけるボランティア活動などとするための改正や施行内規(案)が提案されました。

◇事業計画・予算(案)

事業計画では、K-Libnetを利用した相互貸借の円滑な運営と大学図書館等との連携に向け努力すること、読書ボランティア養成支援事業の委託による子どもの読書活動を進めることなどが提案されました。予算では、表彰費の減額などの提案がされました。



◇表彰者一覧(敬称略)

- 藤井 優子(京都市中央図書館)
 - 福田はる奈(京都市中央図書館)
 - 小金 利美(京都市中央図書館)
 - 山田 隆司(京都市伏見中央図書館)
 - 齋藤亜佐子(京都市醍醐中央図書館)
 - 室屋 知子(京都市東山図書館)
 - 松尾 志鶴(久御山町立図書館)
 - 河西 聖子(精華町立図書館)
 - 勝野つたえ(亀岡市立図書館)
 - 山岡さおり(京丹后市立図書館)
 - 永木 博美(京都市立図書館)
- 受彰者の皆さま、おめでとうございました。

定期総会講演
「選書から考える
これからの図書館経営」
静岡市立御幸町図書館長 豊田 高広

図書館が役に立つためには選書が重要ですが、持続的に役に立つには自力で持続的に選定をするための方法を確立する必要があります。四つの視点から選書の仕方を見直すきっかけを提供したいと思います。

第一の視点として、サービスの対象となるコミュニティの欲求・要求と図書館の使命に基づき選書を行うことが必要です。職員の趣味や規範の一方的な押し付けは、あえて来な

い選択をする潜在的利用者を生み出す。コミュニティの課題を知り、解決に役立つという目的意識を持つことが大切です。

資料を選ぶときは、どんな人がどんな状況でどう利用するのかを、事実に基づきイメージすることが大事です。ポイントは、コミュニティをいろいろな特徴で区切り（セグメント）、その中でサービスを絞り（ターゲット）、絞った相手にとつてどんな位置づけ（ポジション）のサービスを提供するのかを考えることです。公共図書館での新しいサービスは、ビジネス支援といい、多文化サービスといい、ほとんど新しいセグメントの発見から生まれていきます。

貸出傾向などからコミュニティの欲求・要求についての仮説を立て、実践し、検証し、組織として学習をしていくことが大事です。

多様な立場や価値観の方がいるコミュニティは一枚岩ではなく、どのようにアプローチしていくのかを考える必要があります。また、「仮説・検証」サイクルによる選書は、今、利用が多いという事実から後追いつるものではなく、むしろ潜在的な利用者を探すことです。

第二の視点として、買い足すだけの足し算の発想から、既存資料の付

加価値を高める掛け算の考え方への転換が必要です。使われなくなった本を除架することは、蔵書の価値を高めるために必須です。また、世の中の知識の状況を常に意識し、蔵書評価の視点も入れた資料の購入を考える必要があります。三村敦美氏が提唱しているように、ある分野の資料について、密度（要求の大きさ）、速度（資料が古くなる速さ）、深度（専門的な資料への要求）の視点で評価する方法も有効でしょう。

第三の視点として、自館の蔵書は、役に立つ情報の中のごく一部に過ぎないと考えるところから図書館サービスを見直していくことが必要です。公共図書館は、自館の蔵書ですべて足りる総合病院ではなく、とりわけ課題解決型サービスにおいては、館外の情報源とのネットワークを総動員し、お客さんが満足のいく仕事ができる条件・情報を提供する、情報の町医者として認識すべきです。

図書館は、公共機関としての信用や、敷居の低さを生かし、住民が知りたいことがあれば最初に使う情報のかかりつけ医になることが理想です。専門的な情報でも入手できるようになるために、相互貸借から相談窓口の紹介まで、専門機関とつなぐ役割が求められています。

課題解決のためには、使えるウエ

ブサイトの紹介を含んだ情報探索のレシピ（パスファインダー）など、情報の編集が必要です。

図書館がよい脇役になるために、これまで読書支援で培ったノウハウを生かし、住民の情報リテラシーを培い、生かす場にしていくことが求められています。

第四の視点として、選書は組織が継続的に行う仕事であることを踏まえ、「図書館の使命」と「コミュニティの要求」を職員が共有していることが大事です。「図書館の使命」を常に職員に意識してもらおうことと、窓口などでどのようにして「コミュニティの要求」を受けているかを知り、整理し、組織全体に伝え返すことは、館長の重要な役割だと思います。

本の選び方などをオープンに話ができる場を図書館の中で確保してい



くことも大事です。選書は、研修や本を通じて技を学ぶことが難しく、一人のベテランに選書を任せて、後継者を育てずに退職されてしまうこと、後に何も残らないことになりがちです。

資料収集・提供について、利害関係者への説明責任と遵法が求められるようになっていきます。対処法の一つは、その場限りの恣意的な判断を防ぐため、選書や廃棄等の方針を文書化することです。また、法的根拠に乏しい、内輪の論理による規制は、それ自体が行政として責任を問われる時代です。図書館が、自らの使命に基づいて購入した資料を、見せるなどか捨てるとか言われたときに、組織的な対応、危機管理を考慮しておく必要があります。常に、リーダー感覚を備えておき、事件が起きれば、早めに会議・研修で取り上げ、周知を図ることが大切です。

館長は、自分の図書館の使命に基づき、目標・ビジョンを常に掲げ続け、ぶれない経営をすること。目標・ビジョンを実現するために必要な資源を獲得し、効率的に配分すること。スタッフを育て、組織の文化を耕すこと。そして、組織の内外を問わずに、利用者を含むあらゆる関係者の協力をコーディネートすることが大事だと思います。

「京都府立図書館所蔵音声資料目録二〇〇八年版」を作成しました

京都府立図書館では、デイジー資料（視覚障害などのため活字での読書が困難な人向けに製作されたデジタル録音図書）を含め、約二千タイトルの音声資料を所蔵しています。今回、その利活用を促進することを目的に「所蔵音声資料目録」を作成しました。目録は、音声版（デイジー形式 CD-ROM 一枚）と活字版（B4サイズ）の二種類があります。作成した目録は、府内の市町村図書館や府立盲学校など関係機関に配付するとともに、視覚に障害のある方からの配付希望にも応じています。

京都府立図書館では、視覚に障害のある方を対象に音声資料の貸出を行っており、他館への機関貸出も行っています。

なお、デイジー版目録の再生には、専用の再生機かPC用再生ソフトウエア（無料ダウンロード可）が必要となります。

目録の詳細などにつきましては、京都府立図書館（TEL〇七五―七六二―四六五五）障害者サービス担当までお問い合わせください。

読書ボランティア

養成支援事業

この事業は、京都府教育委員会から委託を受け、府内における子どもの読書活動の一層の推進を図るため、学校や図書館等で活躍する読書ボランティアの拡充を図ることを目的として実施をするものです。

実施は、京都府図書館等連絡協議会が主催するほか、市町村立図書館等と共催で実施をします。

講座は、読み聞かせの基礎・スキルを学ぶ講座や実技を取り入れた講座など、工夫を凝らした内容になっています。

★共催実施市町村立図書館

- 宇治市中央図書館
- 城陽市立図書館
- 八幡市立八幡市民図書館
- 木津川市立中央図書館
- 南丹市立中央図書館
- 綾部市図書館
- 福知山市立図書館中央館
- 与謝野町立図書館
- 京丹後市立図書館

合併後の状況について

与謝野町立図書館

与謝野町立図書館
瀬戸真由美

平成十八年三月、合併により与謝野町が誕生して三年が経過しました。

当時、岩滝町立図書館と野田川町及び加悦町の公民館図書室の蔵書を合わせても約六万八千冊という、決して大きくはない規模でした。しかし、同じ図書館システムを利用していたこと、また町の理解もあって、合併にあわせてシステム統合した新図書館としてオープンすることが出来ました。そのことが、町民へ合併に伴う利便性の向上をアピールする良い機会になったのではないかと考えています。

実際、合併直後の利用状況は、前年度と比較して、利用者数で一七・九％、貸出冊数で三六・五％の増であり、その後平成二十年年度まで昨年度比増加となっています。

特に、最近は分室における利用が伸びていることが特徴の一つです。その要因として、学校への団体貸出を始めたことが挙げられます。さらにネットワークにより本館でも分室でも貸借ができるという点が、利用者へ浸透してきたのではないかと考

えています。

今年度は、長年の要望でありました加悦分室の移設改装が計画されています。今まで公民館二階に位置し、場所が分かりにくく、二足制で不便といった利用者の声があったのですが、一階に移動することで、解消され、利用しやすくなると思われ

ます。

分室が活発に利用されることは大変喜ばしいのですが、課題として、館間の物流システムの構築が挙げられます。具体的には資料移動冊数は、合併直後から平成二十年度の三年間で、約三三・七％増加しました。現在は職員の直接運搬と町庁舎便を併用して運用していますが、年々増加すると予想される資料運搬のシステム作りが待たれるところです。

また、主に旧町単位で活躍されているボランティアグループとの連携を図るため、連絡会を立ち上げました。個人ボランティア募集も計画しており、多くの町民の協力を得ることが、町全体の子どもの読書活動の推進を図っていく上での原動力になるのではないかと考えています。

合併後は地域の広がりとともに、町民の図書館への期待も大きくなっていると感じます。その中で課題も多いですが、一歩ずつ進んでいきたいと思えます。

新任図書館(施設)長紹介

- 京都市醍醐中央図書館 鍋谷 英明
- 同北図書館 梅原 武
- 同東山図書館 奥谷 功
- 同南図書館 橋本 寿
- 同久世ふれあいセンター図書館 小川 静夫
- 同こどもみらい館子育て図書館 城下 俊二
- 宇治市中央図書館 細川 幸治
- 久御山町立図書館 村田傳四郎
- 京田辺市立中央図書館 奥村 昇
- 和束町体験交流センター図書館 吉畑 守
- 笠置町中央公民館図書室 福島 学
- 南山村村図書館(旧 南山村村教育委員会図書室) 石田 安彦
- 綾部市図書館 山口美世子
- 福知山市立図書館中央館 木ノ下典子
- 伊根町立本庄地区公民館 石野 渡
- 京都府立図書館 勝間喜一郎

平成二十一年度研修計画

☆第九十五回全国図書館大会

(日協協)

期日 平成二十一年十月三十日(金)
開催地 東京都

テーマ『図書館は力 人・本・情報・まちづくり』

☆全国公共図書館研究会

(日図協公共図書館部会)

サービス、総合・経営部門合同開催
期日 平成二十二年一月十四日(木)

平成二十二年一月十五日(金)

開催地 新潟県新潟市

テーマ『出版文化の危機と新しい図書館像(仮題)』

☆近畿公共図書館協議会研究集会

(兼 児童奉仕部門研究集会)

期日 平成二十一年十一月十八日(水)
午前十時三十分～午後四時

開催地

京都市生涯学習総合センター

(京都アスニー)

テーマ『子どもたちが「感動する心」を育む』

第十八回京都図書館大会

テーマ

「新たな発想・視点からこれからの図書館像を探る」

日時 平成二十一年九月二日(水)

十時二十分～十六時三十分

(受付十時)

会場 同志社大学

寒梅館ハーディーホール

●特別報告①

「開かれた美術

地域と共に歩む

金沢二十一世紀美術館の活動」

講師 秋元 雄史 氏

(金沢二十一世紀美術館 館長)

●特別報告②

「打って出る植物園!

アカデミックさとそれを生かした

エンターテインメントとの両立」

講師 松谷 茂 氏

(京都府立植物園 園長)

●事例発表

「鳥取大学附属図書館における社会

貢献の現状

鳥取大学医学図書館との連携」

森田 正 氏

奈良県立図書館

「文化発信メディアとしての図書館

図書館を核とした

連携サービスの事例」

乾 聰一郎 氏

奈良県立図書館

●交流協議



平成二十一年度 京図連協役員体制

会長

仁科 晴夫(八幡市立八幡市民図書館)

副会長

木ノ下典子(福知山市立図書館中央館)

理事

細川 幸治(宇治市中央図書館)

田中 元美(京都府立図書館)

佛田清太郎(京都市伏見中央図書館)

橋本 寿(京都市南図書館)

矢崎久美子(向日市立図書館)

阪口 守(木津川市立中央図書館)

大西 敏之(南丹市立図書館)

塩見 裕(与謝野町立図書館)

松岡 豊美(京丹後市立図書館)

監事

梅原 武(京都市北図書館)

村田傳四郎(久御山町立図書館)

顧問

中西 進(京都市中央図書館)

井口 和起(京都府立総合資料館)

勝間喜一郎(京都府立図書館)

事務局(京都府立図書館)

森永 健三(事務局長)

氏松 昌平(事務局員)

中松 幸博(事務局員)

藤本 裕行(事務局員)

是住久美子(事務局員)

平成二十一年度

専門委員会委員一覧

◎研修研究委員会

委員長

細川 幸治 (宇治市中央図書館)

委員

齋藤 隆司 (長岡京市立図書館)

山本 陽子 (宇治市中央図書館)

新築 猛 (久御山町立図書館)

尾崎 睦美 (京田辺市立中央図書館)

五十嵐由恵 (木津川市立中央図書館)

岸田 敦子 (亀岡市立図書館)

西鉢 朋子 (舞鶴市立東図書館)

岡本 知子 (宮津市立図書館)

藤原恵美子 (京丹後市立峰山図書館)

長尾 浩 (京都市左京図書館)

小西 理恵 (京都ライトハウス

情報ステーション)

藤原 直幸 (京都府立総合資料館)

植本 和秀 (京都府立図書館)

◎相互協力委員会

委員長

田中 元美 (京都府立図書館)

委員

岡本三容子 (向日市立図書館)

山中真理子 (城陽市立図書館)

鈴木 琢也 (宇治田原町立図書館)

森山 貴子 (精華町立図書館)

前原 英子 (南丹市立中央図書館)

生駒 彩子 (綾部市図書館)

河田美奈子 (舞鶴市立西図書館)

瀬戸真由美 (与謝野町立図書館)

藤原恵美子 (京丹後市立峰山図書館)

田畑 倫子 (京都市中央図書館)

合田 淳 (京都府立総合資料館)

足立 良子 (京都府立図書館)

◎広報委員会

委員長

佛門清太郎 (京都市伏見中央図書館)

委員

真下 慶子 (八幡市立八幡市民図書館)

小谷 光幸 (井手町図書館)

中川 英憲 (福知山市立図書館中央館)

林川 明子 (京都市右京中央図書館)

楠 久美 (京都府立総合資料館)

内野 光子 (京都府立図書館)

専門委員会ニュース

◎研修研究委員会

平成二十一年七月三日(金)に京都府立図書館で、平成二十一年度第一回研修研究委員会を開催し、今年度の事業計画について、次のとおり立案しました。

北部会場

平成二十一年十一月

場所 みやづ歴史の館

内容 高齢者サービスについて

中部会場

読書ボランティア養成支援事業

(京都府教育委員会委託事業)として、講座を開催します。

平成二十一年十一月

場所 京都市内

内容 京の伝承の担い手と

図書との架け橋

南部会場

平成二十一年十月

場所 久御山町ふれあい交流館

内容 ゆうホール(予定)

ブックトーク

詳細については、今後検討し、ご案内させていただきます。

◎相互協力委員会

平成二十一年度相互協力委員会が平成二十一年六月十九日(金)京都府立図書館において開催されました。

主な内容として、京都府図書館総合目録関連では、横断検索館への移行状況等について報告されました。

相互協力委員会事業では、連絡協力車巡回コースについて、府立高校六校を新たに加え巡回を行っていること、二十年度相互貸借統計、二十一年度相互貸借貸出制限資料一覧、職員研修等についてそれぞれ報告されました。

また、学校支援セット貸出については、小中学校向けセット貸出のアンケート結果をもとに協議されました。

その他、相互貸借や図書館業務について情報交換がなされました。今年度の会議としては、実務担当者会議の開催を予定しています。

◎広報委員会

平成二十一年度第一回広報委員会を六月三日(水)に京都府立図書館で開催し、今年度の発行計画と会報第七十九号の編集等を協議しました。

今年度の発行は年三回とし、

・第七十九号 八月十五日

・第八十号 十一月十五日(予定)

・第八十一号 三月十五日(予定)

と決定しました。

編集子

広報委員会は、今年度の人事異動等に伴い新たなメンバーが加わりスタートいたしました。より一層充実した紙面づくり委員会全員一丸となって取り組んでいきたいと考えておりますので昨年に引き続きよろしくお願ひいたします。

さて、先日の新聞記事に公立図書館の民間委託が進んでいるとの記事が出ており、様々な業種が参入しアイデアを駆使してサービスを提供しているのとことです。また、収益を生むサービスでないため予算があわなす。このような状況の中、私たちは今後どのような図書館を目指すのか問われているのではないのでしょうか。